

資料2 令和7年度 美郷町立西郷義務教育学校 学校評価

学校の教育目標 ふるさとを愛し、未来を拓く子どもの育成

段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

質問項目	児童			教員	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者コメント ○良い ●改善、◎意見、★質問
	児童	義務教育	幼稚園					
1 学校は、みなさんが望ましい学習習慣(授業態度、計画的な家庭学習や課題への取組)を身に付けるために、サポートを行っていますか。	3.7	3.0	4.0	3.4	○主題研究において、「ひなたの学び」を進めることで、児童生徒の主体的な学びを意識した授業づくりを展開できるようになってきた。そうすることによって、児童生徒の学習意欲の向上や課題への取り組み方に前向きな姿が見られるようになった。 ○学習習慣の定着に必要な基本的な事項を教室内に掲示し、共通理解・共通実践を行っていることで、児童生徒の授業態度に落ち着きが見られた。 ○各学級で課題内容や授業の様子、学習中の学習内容について学級通信等で知らせたり、長期休業中の課題について一覧を作成し、共通理解を図ったりすることで、児童生徒の家庭学習を支える一助となった。 ●児童生徒と保護者の評価に差があることから、学習習慣に関する取組を紹介し家庭と連携して家庭学習の充実を図る必要がある。	3.5	3.5	○児童の評価が高く、先生方のポートの効果を感じます。その良さを、家庭に理解してもらうために、まずは日々の児童の学習への取り組みについて、家庭が興味を持ってくれると良いと思います。 ○望ましい学習環境が整っていると思う。 ○学習をする前にめあて等がわかるので、何を学ぶのかははっきりして取り組み易いと思います。 ●連携の具体化:「何を、どれくらい、どうやるか」の基準を家庭とより具体的に共有する必要があるのではないのでしょうか。 ◎家庭との連携、保護者の学習(教育)への興味の引き上げが必要と感じます。 ◎評価のギャップ:生徒は「やっているつもり」だが、保護者から見ると「不十分」と感じる、あるいはその逆が起きている可能性があるのではないかと思います。
2 学校は、みなさんが「分かる・できる」ように、工夫して授業や活動を行っていますか。(ICT機器の活用・教材の工夫等)	3.7	3.0	4.0	3.4	○各授業の中で、教師が工夫しながらICT機器を使い、児童生徒の学びを深めようとする授業が展開されている。児童生徒が熱心に学習に取り組む様子が伺える。 ○授業習熟において、ミライシード(ドリル教材ソフト)を活用し、児童生徒それぞれが既習事項の定着に向けて、自身のペースで学習に取り組む姿が見られる。 ○各学級で、学習内容の定着を図るための掲示物や学習への取り組み方についての掲示物等を効果的に設置することで、児童生徒の学びを視覚的に支えている。 ●ICT機器を効果的に活用し児童生徒の学びをより深めるために、学習内容や授業展開に即したICT機器の活用方法を検討しながら、授業づくりをしていくことや授業の様子を紹介していくことが今後も必要である。	3.5	3.5	○子どものタブレットの扱いを見ていると「早い!慣れたるな」と感じます。 ○次々に新しい機器や機能が導入される中で、先生方が学び、選択し、活用し、指導へとつなげていく姿勢に頭が下がります。 ○ICT機器を活用して効率よく、分かりやすい授業が受けられていると思う。 ○ICT活用や掲示物の工夫により、個別最適な学びと落ち着いた学習環境が両立できている。 ●今後は、コメントの通り授業展開に即したICT活用のさらなる具体化を図るとともに、学びの様子を家庭へ「見える化」し、学校と家庭が一体となった支援体制を構築していくことが重要ではないのでしょうか。 ◎詳しいことはわかりませんが、時代の流れにあったICT機器の活用をお願いします。
3 学校は、みなさんがテストや課題に取り組む際に、近い目標や将来の目標(夢)を持ちながら挑戦したり、目標達成のために粘り強く取り組んだりできるようなサポートを行っていますか。	3.6	2.9	3.8	3.3	○学期初めに児童生徒自身が目標を設定する場をつくり、目標を達成できるように授業及び学校生活の様々な場面で支援を行っている。また学期終わりには、それぞれの目標が達成できたかどうか振り返らせ、それぞれの成長につながるようにしている。 ○めあてや目標を掲示し視覚化することで、児童生徒の目標に対する取組の意識向上を図っている。 ●保護者の評価が高くないことから、学級通信や参観授業、懇談等で児童生徒がそれぞれの目標達成のために頑張っていることなど、学校での取組の様子を紹介していく。	3.4	3.0	○学年が上がっていくごとにしっかりと夢や目標も持っている印象。とても素晴らしいことだと思う。 ○成果:PDCA(目標→実践→振り返り)が生徒の中で機能し始めていること。 ●課題:学校での「努力のプロセス」は保護者からは見えにくいいため、そこを繋ぐ「情報発信」を次期の重点に据えたことは評価される。 ◎西郷義務保護者の評価が低めです。 ◎保護者のコメントがないと判断できません。 ◎目標や夢は年々変わってもよいと思うのですが、心が進みついていない生徒はいないのでしょうか。 ◎保護者の評価がやや低く見受けられますが、それは先生方の取り組みそのものへの評価というよりも、児童一人ひとりに対する保護者の期待感と、現状への間に差があるのではないかと感じました。
4 学校は、みなさんが学校生活をおとして、学校のきまりや社会のルール(法律・交通ルール)を守るとうする規範意識を身に付けられるためのサポートを行っていますか。	3.8	3.5	4.0	3.3	○薬物乱用防止教室や交通安全教室、情報モラル教室などを実施し、園児児童生徒の交通ルールを守る意識の向上やメディアに関するトラブル防止、対処法などを学ぶ機会を設定した。 ○長期休業や地域の大祭前には、生活支援部が休日の過ごし方や大祭での過ごし方などの指導を行い、児童生徒の規範意識や安全意識を高めている。 ○学校生活だけでなく学校外で起きた生徒指導上の問題についても、複数の職員で対応し、全体へ情報共有を行い、園児児童生徒の安全安心な日常生活を守るよう努めている。 ●学校のきまりについては、今後も学校や時代に適したものになるように児童生徒と協議検討を進めていく必要がある。	3.7	2.8	○予防指導と組織的な事後対応の両面から、児童生徒の安全確保に尽力している。 ●今後は、校則の見直し等に児童生徒自身が関わる機会を創出することで、時代の変化に即したルールの再構築とともに、生徒の主体的な規範意識をさらに高めていくことが重要だと思います。 ◎学校のきまりを子どもたちに考え作らせている意義をもう少し考えていただきたい。 ◎西郷義務教育学校と中学校の違いを、先生方が理解していく必要があると思います。 ◎挨拶をもう少し積極的に出来ることより良いと思う。 ◎交通ルールはしっかり守れていると思う。
5 学校は、学級での係活動や生徒会活動(隊活動を含む)、学校行事等をおとして、みなさんが自ら考えて行動できる主体性を身に付けるためのサポートを行っていますか。	3.7	3.4	3.8	3.4	○生徒会や隊活動の取組が児童生徒主体で展開している。特に運動会や文化発表会などの大きな行事では、「地域を盛り上げたい」という気概のもと、後期ブロック生がリーダーシップを発揮し、目標を達成してきた。また、隊活動やなかなよし班清掃でも後期ブロック生が中心となって活動を進めている。 ○前期ブロックでは、みどりの少年団の活動において、4年生がリーダーシップを発揮し、卒業式と次年度の入学式へ向けて花を育てる活動を行っている。 ●今後も児童生徒の主体的な活動がより充実したものになるように、教師の共通理解・共通実践を行い、学校全体で支えられるようにしていく必要がある。	3.6	3.4	○児童生徒のコメントがないと判断できませんが、子どもの評価が高いのでいいと思います。 ○児童が主体性を発揮しながら作り上げていくように導くことは、指示・指導することよりも大変だろうと思います。ありがとうございます。 ○人数が少ない中でもそれぞれが役割を果たして生徒会や学校行事など頑張っていると思う。 ○行事や隊活動、みどりの少年団活動を通じ、各ブロックで児童生徒が主体的に活躍する姿が見られる。 ○今後は、生徒の熱意を学校全体で組織的に支えるため、教師間の連携をより強固にすること、自主的活動をさらに活性化させる支援体制の構築が重要である点等が取り上げられている点は評価されます。
6 学校は、学習や生活の中でみなさんの成長や頑張りが見られた際には、褒めて自信をもたせるようにしてきていますか。	3.5	3.4	4.0	3.4	○園児児童生徒の頑張りに対して、日常的に賞賛を行っている。 ○始業式や終業式、表彰集会において、様々な活動で活躍した園児児童生徒を表彰している。 ○学校通信や学級通信、HP、校内掲示などを通して、園児児童生徒が活動する姿を子ども達や保護者、地域の方に紹介した。 ●園児児童生徒が教師に認められていると思えるよう、学校全体で子ども達が頑張っていることを共有しながら、声をかけていく必要があると考える。	3.6	3.4	○児童生徒のコメントがないと判断できませんが、子どもの評価が高いのでいいと思います。 ○全ての児童に対して活躍する場を提供することは大変だとしますが、小さなことにも目を向け、機会を見つけて実践されていると思います。 ○「表彰(公)」と「日常の称賛(個)」と、さらに「地域への紹介(外)」という称賛の仕組みが組まれていること。 ○担任だけでなく、「学校全体(全職員)」で一人ひとりを認めるという、より組織的で網羅的な見守りを目指している点は評価される。

質問項目	児童生	保護者		教員	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者コメント ○良い ●改善、◎意見、★質問
		義務教育	幼稚園					
健康・安全に関すること 7 学校は、健康で安全な過ごし方(登下校も含む)、命を守る方法や生命を尊重する心を大切にした授業や活動を行っていますか。(いじめのない集団づくり、授業、避難訓練、学校保健委員会、性教育、毎月の安全点検)	3.8	3.0	3.7	3.4	○保健だよりや学級通信などで、健康・安全に関することについて子ども達や保護者に知らせることができた。 また、学校保健委員会で、講師を招き講話をしてもらうことで、健康的な生活を送るために大切なことについて、子ども達や保護者が共に考えてもらうことができた。 ○避難訓練をとおして、災害時に安全に行動するにはどうすればよいか、考えて実践できるような活動を行っている。 ●毎月の安全点検を行ってきたが、前期ブロック生が体育館北側中央に設置されている梯子で怪我をする事案が起こり、再度、このような事案が起きないように危険箇所を修繕した。園児や下学年も安全かどうかという視点をもって安全点検を行っている。	3.6	3.3	○安心安全な学校生活の為の取組がなされていると思います。 ○情報発信や学校保健委員会を通じ、親子で安全意識を高める取り組みを推進している。不測の負傷事案に対して即応し、施設の修繕と点検の強化を図っている。今後は、下学年や園児の目線を重視した点検を徹底するとともに、未然防止を主眼とした組織的な安全管理を継続していくことが検討されており、評価されるポイントである。 ◎保護者のコメントがないと判断できません。 ◎地域の方々の目や声掛けも手助けになれば良いと思っています。また、地域と連携した各種訓練を実施することも必要だと思います。 ◎心のケア、命の大切さについて生徒自身がしっかりと考えられるようになって欲しい。
健康・安全に関すること 8 学校は、みなさんが、健康を意識した生活(睡眠・食事・運動・メディアコントロール)ができるように、サポートを行っていますか。	3.6	2.9	3.7	3.2	○毎日の健康観察で、各担当が細かく園児児童生徒の健康状況を確認し、保健室で集約し、教師間で情報共有ができるようにしている。また、朝の登校状況についても、マチコミを中心に情報を全職員で共有できるようにしている。 ○保健だよりや外部講師を呼んでの講話だけでなく、日々の学校生活の中で子ども達に声をかけたり、授業の中で考えさせたり、するなど、園児児童生徒の実態に応じた指導を行っている。 ○養護教諭を中心に歯の治療率アップに努めている。今年度は、33名の子ども達が虫歯の治療が必要で、現在27名が治療済みで約82%の治療率となっている。 ○隊活動の取組の中で、健康を意識した生活を送るための呼びかけが行われており、子ども達の自主的な活動をとおして、健康への意識が高まっていると考える。 ●今後も、健康面に関する情報や協力依頼を各家庭へ定期的に行っていくとともに、子ども達へのサポートを継続して行っていく必要がある。	3.6	3.3	○うちの子だけかもしれませんが、それをする目が悪くなる、メディアの使いすぎだ、これは砂糖が多い、これを続ける和生活習慣病になる・・・等の話をします。 意識は上がっていると思います。 ○「マチコミ等の活用による即時的な共有」と「治療率82%という客観的な成果」。 ○教師からの指導だけでなく、「隊活動(児童生徒主体)」で健康を自分事化できている点。 ○良好な結果に満足せず、「家庭との定期的・組織的な連携」を継続課題として明確にしている点等については評価できる。 ◎生活については、家庭でのサポートが中心だと思うので、児童本人への直接的サポートも大切だが、保護者や家族の意識向上を図る取り組みを、学校だけでなく町全体で進めていけると良いと感じます。 ◎身体が健康である事が一番。隊活動等を通して自分の体の健康について向き合ってもらいたい。
保護者・地域との連携に関すること 9 学校は、保護者や地域と連携し、ふるさとを愛する気持ちや共助(互いに協力し助け合う)の気持ちを育てる授業や活動を行っていますか。	3.7	3.0	3.7	3.8	○総合的な学習の時間を中心に、保護者や地域と連携する活動を多数行うことで、郷土愛を深めることができた。次年度に向けて引継ぎをしっかりと行い、子ども達のよりよい学びと地域・保護者の方々お期待にこたえられるような活動になるようにしていきたい。 【地域と連携した活動】 ・地域の特産物(栗、梨、いらかぶなど)・御田祭参加・福祉(子ども民生委員嘱託、幼稚園との交流など)・伝統芸能継承活動・ひなた場・ドリームプラン・課題解決学習 など ○年間を通して、図書ボランティアの方々に読み聞かせをしていただき、本に慣れ親しみ、子ども達の情操を育む活動を行うことができた。 ○今年度も学校支援ボランティアを募り、活用することで子ども達の学習支援を行い、技能の習得や知識の定着を図ることができた。 ○御田祭への参加については、事前に町教委と打合せを昨年度の反省を生かすことができた。また、事前に保護者との打ち合わせを行い、子ども達がスムーズに参加できるよう計画し、無事安全に参加することができた。 ●御田祭の参加については、新たな課題も出てきたので、次年度に引き継ぎ、今年度よりさらによいものになるようにしていく。	3.6	3.4	○幼稚園から9年生まで、美郷町のことを学ぶ機会が多いと感じます。 ○さまざまなかたちで、地域の方々が児童の為に活動する場を設けてくださっていることに、感謝しています。 ○地域・保護者と密に連携した多様な活動を通じ、児童生徒の郷土愛と社会性を大きく伸張させた。 ○ボランティアによる学習支援や情操教育も定着している。今後は、行事等の運営面での課題を改善・継承し、地域からの期待に応えながら、より質の高い協働的な学びの構築を目指していくことが重要である。 ○成果：単なる「体験」に留まらず、地域の特産物や伝統、さらには「ドリームプラン(将来の展望)」まで繋げた、重層的な地域連携。 組織力：図書・学習支援ボランティアの活用や、町教委・保護者との計画的な打合せによる「安全で確実な運営」。 ○次への視点：成功に甘んじず、浮き彫りになった課題(御田祭など)を「引継ぎによる持続可能な改善」に繋げている点。 次年度の目標が示されている点は評価される。 ◎体育館での伝統芸能継承の発表会の時にもう少し地域の方を呼んでも良かったのではと思った。
保護者・地域との連携に関すること 10 学校は、学校便りやHP、マチコミ、学級通信等を活用して必要な情報を発信していると思いますか。	3.7	3.0	4.0	3.8	○学校だよりや学級通信、保健だよりなど定期的に発行し、学校の様子や時期にあった情報を発信することができた。 ○文書配付やマチコミなどをとおして、家庭への連絡を概ね行うことができています。 ●行事などで司会進行を子どもたちがする場合は通信等で知らせてほしいという保護者からの要望があったため、検討していく必要がある。 ●マチコミとHPの利活用の仕方を検討していくと、一部ペーパーレス化を図ることができる。	3.6	3.3	○甲斐校長の学校便りは内容が充実していると感じます。 ○多様な媒体を活用した積極的な情報発信により、家庭との連携が図られている。 ●今後は、保護者の要望を反映した「活躍の事前告知」などの配慮を検討するとともに、コメントのとりでデジタルの活用によるペーパーレス化を進め、より機動的で効果的な広報体制の構築を目指していくことが重要であると考える。